

支部探訪―室蘭 支部長 佐々木 昇

昭和四十五年室蘭支部の設立か

支部探訪の原稿依頼を受けて、初めて道写協室蘭支部の比較的古い資料を開く機会に恵まれました。

昭和三十六年度の決算報告書が残っていますが、当時の会費は三百円(現在は七千円)で他に寄付金、援助金などで運営されていたようです。事務局は道新室蘭支社内で、会員も二十五名程度でしょうか。役員会は室蘭支社の会議室や、室蘭の飲食店の部屋などを利用していたようです。四十五年以上も前の話ですが、当時から確かに支部組織らしい記録があります。北海道写真協会の室蘭会というところでしょうか。

ところが、それから十年も経った昭和四十五年に、「本部規約改正に伴い、支部を結成することに云々：」の記述があります。当時の本部規約がどのようなものかは解かりませんが、支部として出発したのはこの時点ではないかと思っております。



月例会風景

月例作品の道新掲載が楽しみ

平成十年には五十八名を数えた会員数は、十年後の現在、二十四名と半分以下になってしまいました。しかしこの十年間に、会友に推挙された人が四

名出ました。中西勉、藤倉のりこ、浪岡和雄、佐藤明の各氏であります。今は「四人に続け!」と支部メンバーも努力しているところです。

例会は、五月に一度、二人三点以内でプリント写真を持ち寄り、支部顧問である加賀谷重雄・伊藤重利写真道展審査委員、月岡正明会友と、前記四会友を加えて輪番で公開審査を実施しております。審査後の講評に加え作品造りのアドバイスがあり、参加者には有意義な例会であると思っております。

例会の入選作品の中から数点、北海道新聞の地方版に載せていただけるのが支部員の楽しみで、それが道写協の魅力であると言っても過言ではありません。支部財政は厳しいですが、これからは行事企画の刷新を考えながら、支部メンバーの要望を取り入れた楽しい支部にしたいと思います。

全室蘭写真展―

地域写真愛好家の憧れに

支部の年間行事の一番大きな取り組みに「全室蘭写真展」があります。今年で三十四回目となるこの公募展は西胆振地区で最大の写真公募展にな



全室蘭写真展会場風景

り、近郊の写真愛好家が自由な作品で覇を競う恰好の舞台となっております。入賞・入選作品発表展の開催にも、最近は何々の困難が付きまわってきますが、今後も地域の写真文化発展のためにも、ぜひ開催を続けていきたいと考えております。

紹介

坪川輝子 写真展

「やっぽる四季の移ろい」

平成二十年九月五日(金)〜十日(水) 会場 富士ライムフォトサロン札幌

札幌市中央区北三条西三丁目 札幌北三条ビル2F

展示点数 全紙約三十五点



中島公園銀杏並木

写真展によせて 札幌の街並みを背景に冬に行き交う人々と四季折々の情景を織り交せて、ここ七年間をまとめてみました。

山本康雄 写真展

「大雪の形象〜大雪山〜」

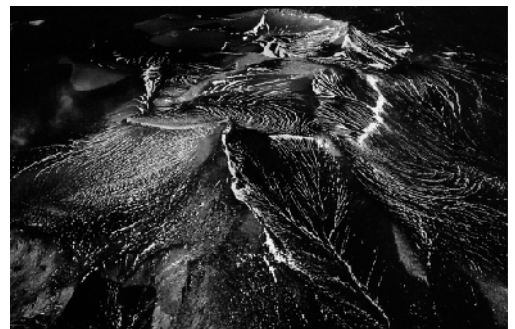
平成二十年九月十九日(金)〜二十四日(水) 会場 富士ライムフォトサロン札幌

札幌市中央区北三条西三丁目 札幌北三条ビル2F

平成二十年六月、千七日(金)〜七月三日(木)

会場 富士ライムフォトサロン(東京)

展示点数 三十四点(大全紙からB1サイズ)



風雪の記憶 (十勝岳)

佐藤豊 写真展

「北のラプソディー」

平成二十年十二月六日(金)〜十日(火) 会場 道新ぎやらり1B室

札幌市中央区大通西三丁目六 北海道新聞社北三条館3階 道新プラザ内

展示点数 全紙十一点 全紙



早朝のトモラウシ山

写真展によせて 変化に富み、神秘的な大雪山を季節の移り変わりや天候・時刻によってさまざまに変貌する一瞬を翼を使って主観的に狙ってみました。

写真展によせて 道写協一筋十二年間、先輩の指導、写真を見て励ましてくれた友人、家族の理解、その恩に報いたく拙い作品ですが、恥を忍んで作品展を致します。大勢のご高覧をお願いします。